

はたらく女性のフロア通信

発行日 2018年3月25日

NO. 34



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://wwfk.jimdo.com/>

3・8国際女性デー神奈川県集会開かれる

～女性にとっての前進は すべての人にとっての前進～

中嶋ひとみ(会員)

▼3・8国際女性デーに250人参加

今年の3・8国際女性デー神奈川県集会はあいにくの雨天でしたが、かながわ県民センター2階ホールは250人の参加者で会場はほぼ満席でした。大半は女性でしたが、男性参加者もちらほら見うけられました。舞台正面には「改憲ストップ！核兵器なくそう！戦争ではなく平和を！」のカラフルな横断幕が掲げられ、右手には黄色やオレンジ色の生け花が飾られていて華やいだムードでした。

オープニングは「アルカディア・デュオ」による、フルートとハープの演奏でした。「天使のセレナーデ」「長崎の鐘」「初恋」「花は咲く」などの曲を優しい魅惑的な音色で披露してくれました。ステキな音楽で実に心地よいスタートになりました。

開会は「報道の自由度も世界で72位と言われている。女性の活躍とうたっているが、安倍政権の本質をしっかりと見極めましょう。沈黙は犯罪です。声を上げていきましょう！」と伍淑子実行委員長(当会会員)からの凛とした呼びかけでした。

来賓あいさつは神奈川労連の福田議長と、畑野君枝衆議院議員でした。

▼望月衣塑子記者の話に惹かれて

記念講演は、東京新聞社会部の望月衣塑子記者による「平和の力を取り戻すために～何故、菅長官の会見に臨むのか」をテーマにしたお話でした。新聞記者になって、今までどんな事件にかかわってきたのかを紹介しながら、うそを何度つかれても、質問をはぐらかされるような回答を何度されても、取材の妨害を受けても、めげずに納得が得られるまで質問し続けるひたむきなジャーナリストの姿に惹かれていきました。また新聞社やテレビ局の報道や放送の表現には、政権に迎合するメディアか否かの差があることを、ひとりの



国際女性デーのようす

ジャーナリストとして驚きの目を持って見ていることもとても面白く感じました。おかしいことはおかしい、誰が見ても不合理なことは許されるべきではない。そういう思いがひしひしと伝わる講演でした。はっきりとものをいうジャーナリストのすがすがしさに惹かれて、思わず本まで買い求めてしまうほどでした。あまりにも面白くて、参加して良かったと感じた集会でした。

▼アピール、呼びかけの採択

講演後は、建設アスベスト被害者の会や神商連婦人部協議会、全日本年金者組合県本部女性の会、神奈川労連女性センター、新婦人県本部、JALを相手に裁判闘争中の元乗務員たちが、のぼりや垂れ幕をもって壇上でひとことアピールを行ない、最後に国際女性デー神奈川県集会全体で、アピールと呼びかけが採択されて、閉会となりました。



ゆるぎなき兜太の遺志や春嵐
山一つ蠟梅の香に包まれる

佐知子

「アベの9条改憲NO！」 3000万人署名で 改憲ストップさせよう

本間 重子(会員)

公文書改ざんという主権者である国民を欺き、行政府（内閣）が立法府（国会）を1年にわたり欺き続けてきたアベ政権への私たちの怒りは、日々広がりアベ内閣支持率も急落しています。ひどい！今こそ“あたりまえの政治”を願う運動をさらに広げなければと思う毎日ですが、この情勢の中で「アベの9条改憲NO！3000万人署名」を、さらに進めなければと思っています。皆さん、進捗状況はいかがでしょう。

私は今年の年賀状に決意の表明として、この運動にとりくむことを書きましたが、最近ちょっと動きが鈍くなっていたことを反省しています。

1月には何人かの友達に、署名用紙・返信用封筒を入れてお願いの手紙を出しました。その中の1人に、40年ほど前に同じ職場で働いたことのある女性がいました。年賀状だけのおつきあいが続いていたのです。昔、真面目で正義感の強い彼女とは年は離れていたのですが、共感できることがありました。彼女は仕事を続けながらモダンダン

スの道を捨てず精進し、創作やコンクールにも参加して受賞するなどがんばっていました。結婚・退職してからも自宅にスタジオを作り、我が子とともに子どもたちを教えたり創作活動を続け、県の文化活動にも舞踊家として、役割を果たしてきました。

その友人がお願いの手紙を受け取ると、すぐに1枚同封した署名用紙を3枚も増し刷りして知人たちの署名を集めて送ってくれ、その後1週間もたたないうちにさらに2枚分の署名を集めて送ってくれました。感激！

添えられた手紙には「私も憲法改悪には絶対反対。戦争放棄した平和憲法のおかげで70年、平和な日々が続いたのです。この時代に私が育ったのはありがたいことでした。自分の地域のNPOの集会所に署名用紙を持っていきお願いしましたが、“戦争反対。アベ9条改憲NO”に皆さんが賛同するものと安易に考えておりましたが、皆さん渋るのです。北朝鮮のこともあり無防備でいられないのでは？時代は変わったなどと、署名をしてくれない人が多くがっかりしました」と率直な感想が綴られていました。彼女が憲法や平和・戦争、政治などについて友人や夫と署名用紙をはさんで話し合ったことは、初めてのことだったと思います。

この友人に感謝するとともに、これからも一層大切におつきあい続けたいと思う今日この頃です。

農事日誌から

小島 八重子(会員)

私が結婚して寒川に来たときは、義父が長ネギを栽培し、出荷していました。師走になると、必ず土日には、義父が収穫したネギを束ねる作業を家族4人総出で行いました。泥をとり、秤にかけ、藁で束ねる作業は、結構時間がかかります。1束1.5キロは高値の時でも300円程度、安い時は100円以下です。家族総出でやっても、もうけはわずか。重労働にしては、割にあいません。もちろん、義母も夫も私も、無償労働です。パートさんをお願いしたら赤字・赤字ですね。ちなみに義父がネギ通帳を見せてくれましたが、常に残高は肥料や手数料を払うと限りなくゼロに近い数字でした。

長ネギはどのように栽培されているか知っていますか。結構、この野菜をつくるのは重労働です。まず、冬場に収穫するには、夏の暑い時期に植えます。植える前には、苗づくりです。春には種まき。ネギ類の種は真黒くて黒ゴマのようです。地表に撒き、土はあまりかぶせません。ネギ

類の発芽はとてもチャーミングです。細い一本の葉の上に種の殻の帽子をチョコンとつけています。たとえば、貴婦人がしゃんと背筋を伸ばして頭の上に帽子を斜にかぶって、おめかししている感じです。



鉛筆ぐらいに育ったら、定植です。この定植は真夏です。30センチほど深く土を掘り、苗を植えます。かなりハードです。滴り落ちる汗が乾いた土にしみこみます。パールバックの『大地』を想像してしまいます。深く掘るので腰にもきついんです。溝に藁を敷き、定植は終了。これからが大変です。関西と違って関東の長ネギは、白い部分を食します。だから、成長に従って土寄せを行います。機械化しているネギ農家さんならいざ知らず、すべて手作業ですから、結構きつい作業です。発芽してから畑に植わっている時間も他の野菜に比べてとても長いです。

でも、お蕎麦の薬味や冬の鍋料理にかかせない“長ネギ”。冬の鍋料理でトロトロとやわらかい長ネギは甘くて最高です。おいしいネギ料理を食べたいから、重労働だけど長ネギづくりはやめられません。

君嶋ちか子がゆく⑪ …神奈川県議会報告

指定管理者制度が公務を侵す 津久井やまゆり園の体制は

私は、指定管理者制度がどんなに公務を歪めるか、いくつかの現場を通じて見てきました。

神奈川県も多くの施設に指定管理者制度を適用しています。その現場として真っ先に浮かぶのが、一昨年悲惨な事件に巻き込まれた県立津久井やまゆり園です。

津久井やまゆり園については、指定管理者への移行当初に比べて、指定管理料が半分以下となっていることに象徴される、ゆとりのない職場が問題とされています。

十分な体制とチームワークで仕事を担っていたなら、職員にあのような暴発は起こらなかったのではとの指摘さえあります。

神リハ、職員の離職が止まらない

県立神奈川リハビリテーションセンターも指定管理施設となっています。当センターは、日本のリハビリ医療をけん引してきた高い水準を有していますが、指定管理料の削減により、職員給与が下がり続け、職員の離職も続いています。



ある職員は「リハセンターが40年かけて培ってきた技術や職員の誇りが、コスト削減により失われていくのは、本当に残念。つげは県民に回ってくる」と語っています。

高い技術とチームワークは、一度失えば容易には取

り戻せません。

リハセンターは、コスト削減に耐えられず、今回県に5億円の貸付要請を行っています。

知事「見直すつもりはない」と回答

指定管理者制度は、「民間能力の活用による住民サービスの向上」と「経費の削減」を目的としています。相反する目的のしわ寄せは低賃金に帰結します。これらは両立し得ません。

公務が担うべき領域には、住民の信頼に応えられる質を確保すべきだと思いますが、指定管理者制度の下でそれが危うくなっています。

次々と現場を手放すということは、障がい者支援・医療などを初めとしたそれぞれの分野で、県の施策に活かすべき現場を失うという事でもあります。

私は住民に的確なサービスを提供するという点から、指定管理者制度の見直しを度々求めています。知事は「好評を得ており、見直すつもりはない」と答えています。

映画が好き

「グレイテスト・ショーマン」

池田 資子(会員)



靴で床を打つ激しい音、颯爽と登場する赤い衣装の紳士、歌そしてダンス。オープニングからミュージカルという

趣。体中がワクワクする。

19世紀のアメリカ、父親を亡くしたバーナムは苦労の末、幼い頃から憧れた娘と結婚して、ショービジネスを始める。主人公を演じる俳優は映画「レ・ミゼラブル」で見事な歌声を披露したのだが、私は外国人俳優の顔と名前がなかなか覚えられない駄目な人で、ただ歌声に魅了されるだけ。この映画の主題曲「ザ・グレイテスト・ショー」は「ラ・ラ・ランド」の楽曲担当者と同じだそう。

バーナムのサーカスと言われ人気を博すショーは、今世界中で騒がれているシルク・ドゥ・ソレイユのような内容構成。何でもあり。社会から疎外され、家族からも疎ましく思われている小人症の人、髭だらけの人、異常に太っていたり、長身の人、女性でありながら髭顔の人や黒人たちが揃って歌い踊るパフォーマンスは圧巻だ。

始めは怖いもの見たさの見物客もいただろう。正面から批判する新聞記事、「フェイクだ」と叫ぶ街の人たち。しかし、ショーは大衆の心を掴み大盛況、バーナムは出世をしていく。後に相棒となるカーライルを自分の仕事に誘おうと説得する場面はふたりの対決のようで観ていて楽しい。

貧しい生い立ちから上流社会に魅かれていくバーナムは妻の止めるのも聞かず勝負に出て敗れる。また、仲間との関係にも歪が生じる。この場面で髭顔の歌姫が歌う「ディス・イズ・ミー」は、今のまま・そのままの自分でいいのだと勇気を与えてくれる。そしてサーカス劇場が火事に…。すべてを失ったバーナムは人生で何が大切かを知ることになる。

とにかく楽曲がいい。2時間ほどの上映があっという間だった。実話に基づく作品。

「慰安婦」問題と ジェンダー平等ゼミナール…② 佐久間由美子(会員)

2017年10月20日から24日まで、「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナールが企画した「中国 南京・上海 日本の加害の歴史に向かい合う旅」に参加しました。前回の続きです。

★南京民間抗日戦争博物館 (2006年開設)

南京の企業家呉さんが3000万元(約5億7000万円)の私財を投入して開設、大きくはありませんが、ビルの3階が展示室、4階が事務室や資料室になっています。

展示室には南京大虐殺にかかわるもののほか、日中戦争の歴史を知るための、当時日本で発行された新聞・雑誌、ポスター、さらには軍刀やヘルメットなど、日本軍に関わるものも収集され展示されています。

ここでは呉館長、研究者、南京大虐殺の生存者の遺族の方の話の話を聞きました。

特に印象に残ったことは、犠牲者の数にかかわる研究です。日本では「南京大虐殺は無かった」「(中国政府のいう)死者30万人はでたらめ」などのデマが信じられています。南京の研究者の調査に基づく話は説得力がありました。南京の城壁の内周は約30キロメートル、山手線とほぼ同じです。市民・軍人・難民などの人口異動を研究し、当時101万人超の市民や軍人がいたと確認されています。

★ジョン・ラーベ記念館 (旧ラーベ邸)

ジョン・ラーベの旧宅兼オフィスが資料館として公開され、ラーベの生涯や国際委員会の活動などについて展示しています。映画「ジョン・ラーベ～南京のシンドラー～」では分らなかったことがありました。ラーベがナチ党员になったのは自身が関わったドイツ語学校の補助金を受けるためだったこと、ヒトラーを積極的に支持していたということでは無



鉄兜がかぶせてある
モニュメント

鉄兜がかぶせてあるモニュメント

ここでは呉館長、研究者、南京大虐殺の生存者の遺族の方の話の話を聞きました。

特に印象に残ったことは、犠牲者の数にかかわる研究です。日本では「南京大虐殺は無かった」「(中国政府のいう)死者30万人はでたらめ」などのデマが信じられています。南京の研究者の調査に基づく話は説得力がありました。南京の城壁の内周は約30キロメートル、山手線とほぼ同じです。市民・軍人・難民などの人口異動を研究し、当時101万人超の市民や軍人がいたと確認されています。



ジョン・ラーベ銅像

かったようです。しかし戦後はナチ党员と言うことで冷遇され、食糧も満足にえられず、苦しい生活をしていたそうですが、その窮状を知った南京市民が、カンパを集めて、毎月、食料や日用品を送っていたそうです。またラーベの娘さんは、日本の右翼から何度も脅迫されて、ノイローゼになり、若くして亡くなったということです。

★中国「慰安婦」歴史博物館 (上海師範大学)

1999年上海師範大学蘓智良教授らにより、前身の中国「慰安婦」問題研究センターが創立され、さまざまな調査・研究・支援が行なわれてきました。支援と言うのは中国国内に生存している元「慰安婦」19人に対する物心両面での支援をいいます。昨年博物館として新たに活動を始めました。

博物館前の緑地には、「中韓平和の少女像」が設置されています。一体はあの韓国の少女像と同じ、もう一体は中国人少女です。隣にはもうひとつ椅子があり、それは名も知られず亡くなりした他の少女たちのための椅子だそうです。この像には日本政府が2度も抗議・撤去要求をしてきたといえます。ホントに申し訳ないですね。



中韓平和の少女像

★そのほかの遺跡等

◎南京中山埠頭の大虐殺現場

現在は長江岸の公園として整備されているところに記念碑があります。日本軍の撮影した写真がある現場です。中国第2の長江大橋が眺められます。

◎旧金陵女子文理学院(現南京師範大学)

上海・大ーサロン
2階建ての「住宅」を慰安所として使用、旧日本人居住区にあり、現在は普通の住宅として使用されていました。(おわり)

WWFK文化行事

「五日市憲法草案」の地を訪ねる

日時：2018年4月8日(日)

集合：10時30分

JR五日市線武蔵五日市駅改札

行程：五日市憲法草案の碑⇒五日市郷土資料館 ほか

*詳しくは同封のチラシ参照